基本目標検証シートの見方と検証のポイント

総合戦略基本目標検証シート(平成27～令和元年度実績を踏まえて)

基本目標 1 **大船渡にしごとをつくり、安心して働けるようにする** 総合戦略における基本目標の計画内容について、そのまま転記しています。

計画内容 進学や就職で当市を離れた若者などが、その後、再び戻ってくる割合が一貫して低い状況が続いている。この背景には、地元の魅力ある職種が少ないこと、当市に居住しながら勤務できる企業が十分に立地していないこと、さらには、豊かな農林水産資源の高付加価値化等の活用が不十分であることなどがあると推測される。
当市では、人口減少に一定の歯止めをかけ、持続可能な地域づくりを推進するため、「しごと」をつくり、働く場の確保や働きたい場の創出を図ることが第一であり、産業振興による新たな雇用の創出をはじめ、農林水産業の高付加価値化、起業・第二創業の促進、女性や高齢者等の効果的な活用、さらには産業人材の育成や職業訓練の推進などにより、大船渡でしごとをつくり、誰もが安心して働けるようにする。
こうした取組を継続しながら、市外から人を呼び込む流れを生み出し、「しごと」と「ひと」の好循環へとつなげ、持続可能な「まち」の構築を図っていく。

重要業績評価指標	単位	目標値 (R01)	実績値 (計画期間)						達成率 (対R01)	
			基準値 H26	H27	H28	H29	H30	R01		
① 市内総生産	単	百万円	166,567	166,152	193,461	205,418	207,857	187,378	170,532	102.4
② 基盤産業総生産	単	百万円	32,292	30,211	42,682	40,587	42,256	36,039	39,223	121.1
③ 起業・創業件数	単	件	40	59	55	39	31	29	26	65.0
④ 職業訓練等受講者数	単	人	170	144	112	148	115	68	75	44.1

※①②の数値は、当該年度で把握した数値であり、2年前の実績値である。

○施策の体系と進捗度

施策1 産業競争力の強化

111	水産業連携強化促進プロジェクト	B
112	おいしい「食」づくり力向上プロジェクト	A
113	持続可能な漁業推進プロジェクト	B
114	港湾物流機能強化プロジェクト	B

施策2 新産業の創出と起業・第二創業支援

121	テレワーク導入促進プロジェクト	A
122	新分野進出促進プロジェクト	B
123	出る杭育てるプロジェクト(起業家輩出プロジェクト)	A

施策3 地域産業人材の育成とキャリア教育の推進

131	地域産業人材育成強化プロジェクト	

重要業績評価指標に関する数値等を記載しています。「実績値」は、単年度で捉えるものと累計で捉えるものの2種類あります。「達成率」は目標値(R01)に対する直近(R01)の実績値の達成割合を算出したものです。これらにより、基本目標の計画内容がどの程度進捗しているか等がわかります。

取組の状況や指標の達成度、進捗状況等を踏まえ、総括を整理しています。赤字は主な修正箇所です。

左の総括を踏まえた今後の方向性を記載しています。事後評価として「**今後の方向性が妥当であるか等**」を検証します。

評価結果(内部評価)	基本目標・施策の総括と今後の方向性		進捗度の理由	
	総括	今後の方向性	進捗度	理由
B	3施策9プロジェクトを実施し、しごとをつくり、安心して働けるようにするための各種取組を推進した。 ・施策1「産業競争力の強化」については、重要業績評価指標における市内総生産の推移から、東日本大震災の復旧・復興に伴う地域経済の好況は、平成26年～平成27年をピークを迎え、特に市内経済を牽引した建設業等の減少が大きな要因となっている。また、基盤産業(水産・食産業及び港湾関連産業)についても、復興需要の収束や人口減少、経済のグローバル化の進展など取り巻く環境の変化により厳しい状況となっており、目標値は達成しているものの、産業の競争力の維持・強化が課題である。 ・施策2「新産業の創出と起業・第二創業支援」については、重要業績評価指標における起業・創業件数は減少傾向にあるものの、5年間平均では1年に36件と一定の成果は見られるが、業種間連携や域内連携の推進、起業・第二創業の支援の取組のほか、情報関連産業や農林業の成長産業化の取組を継続するとともに、Society5.0の実現に向けた技術の活用などを視野に入れた取組を推進する必要がある。 ・施策3「地域産業人材の育成とキャリア教育の推進」については、重要業績評価指標における職業訓練等受講者数は、減少傾向が続き、5年間平均でも1年に104人と目標値の6割程度にとどまっている。また、進学や就職で当市を離れた若者等が、再び戻ってくる割合が低いことから、中高生の段階から当市の仕事に触れる機会を増やしながら、新規高卒就職者の地元定着やUターン就業への支援のほか、女性、高齢者など多様な人材の就業支援とともにテレワークの普及など、新たな働き方の実践を促進する必要がある。	・大船渡市魚市場を中心に水産流通加工業との連携による水揚増強対策の推進、新たな養殖等の導入可能性の検討や加工玉魚等の確保に向けた取組を強化する。 ・担い手の確保・育成等に係る支援活動の展開とともに、漁業経営者や水産関連企業の就業者確保に伴う宿舍整備などの支援、水産関連人材の確保を図る。 ・業務の省力化や自動化等の取組の支援とともに、域内連携による商品の高付加価値化を促進しながら、地域ブランド化の構築等を推進する。 → 様々な産業分野の起業家等による交流の場を設けながら、関係機関と連携した支援を行うほか、経営や事業創造を学ぶ機会の提供など、起業や第二創業の土壌づくりに取り組む。 ・商品開発や新事業への新たな取組の支援、大船渡ふるさと交流センター・三陸SUNを拠点とした首都圏への新たな販路開拓の仕組みを構築する。 ・生産者や関連企業・事業所との連携体制の構築、農林業の成長産業化など新たな分野の産業創出を図り、地域経済の好循環を生み出す仕組みづくりに取り組む。 ・大船渡市ふるさとテレワークセンターを拠点として、小中高生や一般を対象に地域IT人材の育成、情報関連企業の集積、ITを活用した女性等の就業の場を確保する。 ・地元IT企業等と連携し、中小企業の業務の効率化や高度化、農林水産業のIT化などに向けたIT活用の取組の支援、Society5.0を支えるテクノロジーの導入等による地域課題解決型ビジネスの創出を支援する。 ・SDGsの実現に資する取組について、様々な機会を捉えて情報提供を行いながら、取り組む事業者を支援する。 ・新規高卒就職者の定着化、地元企業の仕事を知る機会を提供するため、中高生を対象に職場体験を含むキャリア教育を実施する。 ・関係機関・団体等と連携した就職フェア等での情報発信や地元企業への就職支援、就職後のフォローアップなど、若年層・壮年層の地元定着化に取り組む。 ・ジョブカフェ気仙での職業相談、気仙高等職業訓練校が実施する認定職業訓練や求職者訓練など、様々な機会を捉えて仕事に対する意欲や職業能力の向上を促進する。 ・テレワーク等の時間や場所を選ばない働き方が浸透しつつある中で、プログラミングなどITスキルの習得機会の提供や、新しい働き方を普及させることで二地域居住につなげるなど、短期移住者を増やす取組を実施する。	B	産業競争力の強化については、復興需要等に引き込まれた市内経済の好況により、計画期間内における重要業績評価指標は達成しているものの、復興需要の収束や現象減少等により減少傾向にあることから、臨海型産業の誘致やILC誘致活動など更なる取組の強化が必要である。 新産業の創出と起業・第二創業支援及び地域産業人材の育成とキャリア教育の推進については、一定の成果はあったものの、計画期間内における重要業績評価指標は達成していないことから、一層の起業・第二創業支援や人材育成の取組を充実・強化する必要がある。

取組の状況や総括等を踏まえた結論としての進捗度を記載しています。事後評価として「**この進捗度が妥当であるか等**」を検証します。
※説明書きがない場合は、進捗度は昨年度と同様です。

左の進捗度に至った理由について記載しています。事後評価として「**この理由が妥当であるか等**」を検証します。
※赤字は、昨年度の記載内容を加除修正した箇所です。

プロジェクト検証シートの見方と検証のポイント

総合戦略プロジェクト検証シート(平成27~令和元年度実績を踏まえて)

プロジェクト名 **111 水産業連携強化促進プロジェクト** 総合戦略におけるプロジェクトの計画内容について、手段・意図や目的ごとに区分しながら、そのまま転記しています。

計画内容	手段・意図	水産業に係る生産、加工、流通の連携強化による稼ぐ力(域外から収益を得る力)の強化により、	水産業に係る生産、加工、流通の連携強化による稼ぐ力(域外から収益を得る力)の強化により、
	目的	人材不足解消に向けた機械化による業務省力化の推進する。	・域内調達率の向上を促進する。 ・他業種との連携を強化する。 ・地域ブランド化の構築等を推進する。

重要業績評価指標	単位	目標値(R01)	実績値(計画期間)						達成率(対R01)
			基準値	H26	H27	H28	H29	H30	
① 大船渡市魚市場水揚高	単 百万円	7,200	7,042	6,107	5,694	6,979	6,502	5,397	75.0
② 大船渡市魚市場水揚量	単 t	60,000	52,861	41,799	36,076	37,605	43,393	35,935	59.0
③ 食料品製造出荷額(水産加工品)	単 億円	128	113	138	156	226	204	確認中	#VALUE!

※③の数値は、当該年度で把握した数値であり、2年前の実績値である。

関係課	産業政策室、観光	重要業績評価指標に関する数値等を記載しています。「実績値」は、単年度で捉えるものと累計で捉えるものの2種類あります。「達成率」は目標値(R01)に対する直近(R01)の実績値の達成割合を算出したものです。これらにより、プロジェクトの計画内容がどの程度進捗しているか等がわかります。
関連する事務事業	① 地方創生推進事業	
	② 物産販路拡大事業	【1,918千円】
	③ 企業立地推進事業	【23,272千円】
	④ 産学官連携交流促進支援事業	
	⑤ 雇用促進奨励支援事業	
	⑥ 起業支援事業【再掲】	
	※【 】内の数値は、令和元年度事業費(決算額)である。	
	⑧ 地域基幹産業人材確保支援事業	【33,075千円】
	⑨ 水産業振興・情報発信事業	【471千円】
		0千円
		0千円

「計画内容の具現化」や「指標達成」に向けた平成27年度からの取組の状況を記載しています。※赤字は、昨年度の記載内容を加除修正した箇所です。

計画具現化や指標達成に向けた取組状況等	取組の実績(H27)	・岩手大学、北里大学と市内事業者の共同研究に対して、補助金を交付した。採択件数26件、補助金額29,836千円(平成27年度~令和元年度)〔④〕 ・大船渡市水産振興会と連携して、令和元年度まで訪問件数延べ467件、誘致活動参加者数延べ182人が廻来船等の誘致により水揚増強を図った。〔⑦〕 ・水産加工業の人手不足対策として、宿舍等の建設費用の一部を補助し、平成27年度から令和元年度まで延べ66人を新規雇用(全て外国人)した。〔⑧〕 ・平成29年8月1日付で、大船渡産水産物の魅力発信等を行う地域おこし協力隊隊員1人を委嘱したが、令和元年6月30日付で自己都合により退職。〔⑨〕 ・平成28年4月12日一般社団法人大日本水産会より優良衛生品質管理市場・漁港認定を受け、平成31年3月18日岩手県高度衛生品質管理地域として認定された。〔⑩〕 ・地域経済循環創造事業交付金を活用し、地域金融機関と共同して水産加工等の工場整備を支援するとともに、原料確保に係る取引拡充に向けた取組を検討した。〔①〕 ・大船渡ふるさと交流センター「三陸SUN」において、首都圏での生鮮水産物の店頭及び企業向けでの販売を実施し、販路を開拓した。〔②〕 ・人材不足の解消を図るため、既存の事業主に対する雇用奨励金制度から、新規卒者等に対する就職奨励金制度を新たに創設した。〔⑤〕 ・平成30年度はシビックテック大船渡において、水産加工場における動線効率化の課題検討を行った(試作までは至っていない)。 ・令和元年度は、廻来船等の誘致のため船主等への訪問87件(誘致活動参加者数55人)を行った結果、大船渡魚市場水揚高の33.1%を県外船籍が占め、平成30年度より0.2%増加した。〔⑦〕 ・令和元年度分として、2事務所が宿舍を整備し、新規雇用者を31名雇用した。〔⑧〕 ・平成30年度から就職奨励金の交付対象である新規卒者の範囲に、中学校、高等学校、特別支援学校の卒業者を追加した。 ※平成29年度実績12件(うち水産加工業0件)から、平成30年度実績18件(うち水産加工業2件、新卒者1名、Uターン者1名)に増加した。 ※【 】内の数値は、関連する事務事業である。
	R1年度の変化	【新たな取組等】 ・令和元年度に地域経済循環創造事業交付金を活用し、新規事業として「マヨネーズの機能性成分を活用した口腔ケア食品の製造を行う水産加工業者1社の工場建屋の増築及び成分分析等の整備の支援を行った。 【既存取組の拡充・見直し等】 ・令和元年度に市場関係者等へ岩手県高度衛生品質管理地域認定PRポスターを配布して周知を図った。

平成27度からの取組に係る「成果」を赤字で新たに記載しています。

評価結果(内部評価)	上指標の状況による成果	・漁船誘致を継続することにより、大船渡市の水揚げに貢献している。 ・水産加工業者7事業者が宿舍を整備し、平成27年から令和元年度まで延べ66人の新規雇用があった。 ・岩手大学との共同研究で取り組んでいる作業工程の省力化等については、継続して研究を重ねることにより、本格的な導入につながるものと考えている。 ・北里大学との共同研究については、生物学的視点での基礎研究を含む研究のため早期に成果が出にくいですが、継続することにより、生体の解明が進み、生産技術の開発や商品化及び地域ブランド化推進につなげていくことを考えている。											
	課題と今後の方向性	<table border="1"> <thead> <tr> <th>課題</th> <th>今後の方向性</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>加工原魚の確保</td> <td>永続的な水産資源の安定確保に向けた施策の充実の国等への働き掛け</td> </tr> <tr> <td>労働力の安定的な確保</td> <td>漁船誘致の継続・拡大を実施し、更なる水揚増強の推進</td> </tr> <tr> <td>水産系未利用・低利用資源の活用促進</td> <td>Uターン者、女性、障がい者、再雇用等の促進</td> </tr> <tr> <td></td> <td>AI・IoT等の活用による業務の省力化</td> </tr> <tr> <td></td> <td>未利用・低利用資源の探索及び域内取引マッチングの推進、産学官での商品開発及び販路開拓の推進</td> </tr> </tbody> </table>	課題	今後の方向性	加工原魚の確保	永続的な水産資源の安定確保に向けた施策の充実の国等への働き掛け	労働力の安定的な確保	漁船誘致の継続・拡大を実施し、更なる水揚増強の推進	水産系未利用・低利用資源の活用促進	Uターン者、女性、障がい者、再雇用等の促進		AI・IoT等の活用による業務の省力化	
課題	今後の方向性												
加工原魚の確保	永続的な水産資源の安定確保に向けた施策の充実の国等への働き掛け												
労働力の安定的な確保	漁船誘致の継続・拡大を実施し、更なる水揚増強の推進												
水産系未利用・低利用資源の活用促進	Uターン者、女性、障がい者、再雇用等の促進												
	AI・IoT等の活用による業務の省力化												
	未利用・低利用資源の探索及び域内取引マッチングの推進、産学官での商品開発及び販路開拓の推進												

取組の状況や成果等を踏まえた上での課題を整理しています。事後評価として「この課題が妥当であるか、追加項目がないか等」を検証します。※赤字は加除修正した箇所です。

左の課題に対する改善策や方策等について、今後の方向性として記載しています。事後評価として「今後の方向性が妥当であるか等」を検証します。※赤字は加除修正した箇所です。

B

取組の状況や成果等を踏まえた結論としての進捗度を記載しています。事後評価として「この進捗度が妥当であるか等」を検証します。※説明書きがない場合は、進捗度は昨年度と同様です。

左の進捗度に至った理由について記載しています。事後評価として「この理由が妥当であるか等」を検証します。※赤字は、昨年度の記載内容を加除修正した箇所です。